

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジハウスHERO		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 28日		～ R8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 28日		～ R8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校や家庭とは違う『第3の居場所』として、本人の主体性や自立心を育む多彩な体験機会	外出イベントでは事前に子どもの意見を取り入れたり、室内では静と動のスペースを明確に分けたりすることで、集団が苦手な子ども自分のペースで楽しめる環境を常に意識している	活動を通じて得られた成功体験(できた!という喜び)をスモールステップで積み上げ、自己肯定感を高める支援をより強化していく
2	各々のニーズに合わせたプログラムの作成、療育を通して個々の成長をより促し、将来に繋がる経験を重ねていること。	個別支援計画に沿ったSSTに加え、運動やコミュニケーションなど各々の苦手とする部分に着目し、個別支援を進め子どもたちの出来る事を日々増やしている	子どもたちのできたを逐一保護者様と共有し、新たな達成目標を設けたり、スモールステップで進んでいけるよう本児とも話し合いながら無理なく進めていく
3	季節毎の行事、プログラムの実施から様々な体験が出来る機会がある	お花見や夏祭り、ハロウィンやクリスマスパーティなど四季から取り入れられる季節毎の行事、またひな祭りや着付け体験等日本特有の文化にも触れることのできる取り組みを行っている	各それぞれの行事の意味やなぜ今まで続いてきているのか等文化理解の時間を増やしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学年の幅が広く興味関心が多様化しているため、高学年でも満足できる質の高いプログラムの安定供給」	同じ活動の繰り返しは安心感を生む一方で、意欲の低下を招くこともある。年齢層の幅が広いため、全員の興味を同時に惹きつける難易度の高い設定が必要になっている	スタッフ間で定期的な企画会議を行い、トレンドや新しい療育ツールを積極的に導入。子どもの反応を即座にフィードバックし、翌週の活動に反映させるなど、プログラムの柔軟なアップデート体制を構築する
2	記録書類等の事務作業の効率化	デジタルに不慣れなスタッフの負担、もっと子ども達との関わる時間が欲しい、優先したいという思い	業務分担の見直し、デジタル導入前に丁寧なレクチャーを行い慣れるまで紙媒体の併用。記録も大切な支援の一つとして意味づけや評価を共有しスタッフの育成をする
3	事業所の環境整備の見直し。	危険につながるもの等は子どもの視界、手に触れないよう管理は行っているが、子どものイレギュラーな動きに焦ってしまう事がある	安全確保を第一優先で、配置のレイアウトを行い活動がしやすい、切り替えやすいようにすることで危険リスクを軽減し見通しを持ちやすい配置で安心感に繋げる